

随筆



写真遍歴

沖縄県立中部病院 産婦人科
高橋 慶行

カメラというものは昔は結構高価なもので、写真も今みたいに誰でも気楽に撮れるというものではなかった。ということで写真を結構撮るようになったのは、20数年前、研修医を終えて、スタッフとなってからであった。それまでもアルバム用の記念写真的なものは多少撮っていたが、自分でカメラを買って風景などを撮りはじめたのが、20数年前だ。レンズといえばカールツァイスということで奮発して京セラのコンタックス T2 というコンパクトカメラを買って、主にネガカラーフィルムで撮っていた。その後、宮古に転勤となり、常にオンコール状態ではあるが比較的時間に余裕ができたので、カメラを持って宮古島をあっちこっち探検して撮影していた。フィルムもリバーサルフィルムを多用するようになった。当然のことながら、カメラにも興味が湧いてきて、殆ど中古ではあるがいろんなカメラを手に入れて使ってみた。買った順番やカメラの名称はかなり前のことで不確かだが、写真の基礎を学ぶにはマニュアルカメラだということで次に機械式一眼レフカメラを買った。よく使ったのが東ドイツ製のプラクティカというカメラで、これは安価だが、マウントが M42 スクリューマウントでカールツァイス製のレンズも含めいろいろな古いレンズが使用可能ということがポイントだった。マニュアルカメラなので、フィルムを巻き取らないうちに裏蓋をあけて写真を何枚もだめにしたり、できあがった写真の焦点があっていなかったり、露出を間違ったりと失敗も多かったが、写真の勉強にはなった。一眼レフカメラ (35 ミリフィルム用) は、その後ペンタックス K1000、オ

リンパス OM3Ti、ライカ R8 など主に中古のマニュアルフォーカスカメラをよく使ったが、最後にオートフォーカスのペンタックス MZ を新品で買った。その後時代はデジタルカメラに移行してフィルムカメラは殆ど販売されなくなり、以後はデジタルカメラへと移行した。話はまた戻って今も昔もカメラといえばライカは避けて通れず、とはいえレンズもいろいろそろえるとなるとかなりの出費で、手を出しかねていたが、JICA のプロジェクトでメキシコに赴任する機会があり、この時メキシコの中古カメラ店でライカ M3 を格安で手に入れることができた。古いカメラなのでやや使いにくいところはあるが、カメラの質感は最高で、特に白黒フィルムで撮影するといいい感じの写真が撮れた。さらに露出計のついた当時の最新機種ライカ M6 も中古で手に入れて使ったが、質感は M3 の方が遙かに上であった。しかしレンジファインダーカメラは眼鏡をかけているとファインダーが少し見にくく、一眼レフの方が使いやすいのでライカは R8 に切り替えた。写真も撮っていると、今度は大きなフィルムでも撮って見たくなり、ブローニータイプのフィルムを使う中判カメラに興味を持った。自分のアルバムには、小さい頃の写真で正方形の精巧な白黒写真がいくつかあり、親は 2 眼レフカメラを使っていたようで、これに興味を持った。2 眼レフカメラの王様はローライフレックスだが、さすがにすぐには手が出せない。とりあえず中国製のテクサーという 2 眼レフカメラを使ってみた。6x6cm というフィルムのフォーマットは独特で、また 2 眼レフカメラはファインダーが左右反転して映るという面白さもあり、次にレンズ交換可能のマミヤの 2 眼レフカメラを手に入れた。このカメラは非常に面白いのだが、重くて大きく持ち歩きが大変で気楽には使えなかった。やはりローライフレックスの魔力には勝てず、ローライフレックス 2.8GX を他のカメラを何台か売りとばして入手した。これは撮っていて一番楽しいカメラでよく使った。また中判の一眼レ

フといえばなんと言ってもハッセルブラッドだが、さすがにこれは無理で、国産のゼンザブロニカ GS1 という最大 6x7cm まで撮れるカメラを手に入れた。このカメラも使い心地が良く愛用しているが、重くてかさばるので気楽には持ち歩けない。さらに大きなことはいいことかもと 4 x 5 インチのシートフィルムを使う木製大判カメラ（タチハラフィルスタンド）にも一瞬手を出した。手間暇かけて撮影するのは口ハスで楽しいのだが、さすがにあまりに手間がかかりすぎるので殆ど出番がなかった。逆にフィルムが小さいハーフサイズカメラのオリンパスペンは小さくて面白いのだが、画質が良くないため多くは使わなかった。少し変わったカメラとしてスイングレンズ方式のパノラマカメラのワイドラックスも面白く愛用した。レンズを回転させて撮影し 24x60mm のかなり湾曲した独特の写真ができあがる。宮古島にいるときはかなり写真に入れ込んで、暗室を作ってモノクロフィルム現像、引き伸ばしまでやっていた時期がある。この作業をやっていると本当に写真というものを実感できて幸福だった。沖縄本島に戻ってからはさすがに暗室作業どころではなく、ラッキーの引き伸ばし機もほこりをかぶるばか

りで、10 年ぐらい前に一式処分してしまった。一時期アサヒカメラの写真コンテストにも結構応募していた時期があったが、高級カメラで撮った作品はことごとく落選し、一回だけ賞をもらった作品はレチネッテというメキシコの古道具市でただ同然で手に入れた半分壊れたカメラで撮影した写真だった。これがあって急にカメラに対する物欲が醒めて、多数所有していたカメラを使い勝手の良い数台を残して処分してしまい、さらに新しいカメラの購買意欲も大幅に減退してしまった。そのうち時代はデジカメへ、さらに最近では写真をフィルムカメラはおろかデジカメでも撮る人は少なくなり、スマホで写真（画像？）を撮るのが主流となった。カメラメーカーもニコンとキャノンは健在だが、フィルムカメラを作っていたいろいろな会社も廃業したり他社に買収されたりしてしまい寂しい限りである。最近はあまりに簡単にきれいな写真が誰でも撮れるので、逆に写真を撮ろうという情熱が以前ほど湧かず、時間的にも余裕が無く写真を撮る機会が減っているが、もっと年を取って余裕ができたなら、フィルムが存在する限り、温存してある古いカメラを取り出して撮影を楽しみたいと思っている。

